



弓削商船高等専門学校バリシップ 2025

教育機関として初出展！

練習船「弓削丸」一般公開

1. はじめに

2025年5月22日(水)から24日(土)まで今治市で開催された国際海事展「バリシップ 2025」において、弓削商船高等専門学校が教育機関として初めて出展し、大きな注目を集めました。この画期的な出展は、同窓会の強力な進言がきっかけとなり実現しました。

2. 出展までの経緯と「弓削丸」の一般公開

バリシップ 2025 への出展は、同窓会からの熱心な進言が発端となりました。2024年5月には、柏木会長がバリシップ主催者であるインフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社のクリストファー・イブ代表取締役社長に直接出展を打診し、さらに弓削商船高専の校長を説得するなど、多大な尽力がありました。

教育機関として初の試みでしたが、この進言と尽力により学校は出展を決定。そして、令和6年3月に竣工したばかりの第四世練習船「弓削丸」を今治港第1棧橋に接岸し、一般公開するという、目玉となる企画も実現しました。この「弓削丸」の一般公開は、今治市産業振興課海事都市推進室の要望とも一致し、海事都市今治の活性化に貢献しました。最新鋭の設備を備えた練習船を間近で見学できる貴重な機会として、多くの来場者が訪れ、学生たちが誇らしげに来場者を案内する姿が見られました。

3. 多彩な出展内容で魅力を発信！

本校はAゾーン テクスポート今治 2F のA2-12の位置において展示を行いました。学校の教育内容や学生たちの研究・開発の取り組みを積極的に紹介しました。具体的には、以下の内容が展示されました。



・ **学校概要と学科紹介：** 弓削商船高等専門学校の歴史、教育理念、そして商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3つの学科それぞれの特色やカリキュラムについて、パネルや映像で詳しく解説されました。



・ 工業系技術の紹介:

・3D プリンティング:

練習船弓削丸の模型を 3D プリンターで製作し、展示しました。

・カプセルトイ: 船や海にちなんだ景品が入ったカプセルトイを設置し、来場者の関心を引きました。



・ 練習船「弓削丸」の新機能:教育と災害支援の融合

・船上カメラ映像と自動運航データ共有システム: 練習船からのカメラ映像を陸上で取得し、校内の学生もリアルタイムで授業中に確認できるシステムを紹介しました。また、船上の各種データを陸上で取得し、校内の学生用 ECDIS(電子海図情報表示装置)端末でリアルタイムに表示するシステムも展示しました。これにより、練習船と学校が融合した新たな教育環境が構築されています。

・災害時の防災船上局化: 災害時に陸上の携帯電話基地局が不通になった際、船上の衛星アンテナを介して船から陸上に向けて携帯電話の電波を提供し、災害地の通信環境を維持する取り組みを紹介しました。これは、地域に貢献する災害支援機能として期待されています。

・ 進路・就職支援の紹介: 商船学科の卒業生が 3 級海技士として世界の海で活躍する様子や、工業系 2 学科の就職率 100%の実績、国立大学や専攻科への進学状況など、卒業後の幅広い活躍の場を紹介しました。

・ 体験コーナー: VR シミュレータによる操船体験、また、VR ゴーグルによる弓削丸の船内探索や弓削島上空の散策などが行われ、海事や工業に関する新たな技術を体験できる機会を提供しました。



4. おわりに

今回のバリシップ 2025 への出展は、海事都市・今治における地域密着型イベントとしてのバリシップのコンセプトに完全に合致し、弓削商船高等専門学校が地域社会に深く根ざし、その発展に貢献していることを改めて示すものとなりました。バリシップ 2025 には 3 日間で合計 18,785 名(出展社を含む)もの参加があり、そのうち 5 月 22 日(木)は 7,383 名、5 月 23 日(金)は 5,790 名、そして最終日 5 月 24 日(土)には 5,612 名(うち一般来場者 4,923 名)が来場しました。このような大規模なイベントにおいて、弓削商船高専の出展は、未来を担う若者たちが海事産業に関心を持ち、次世代のプロフェッショナルを目指すきっかけ作りに大きく貢献しました。